

問1 663年に朝鮮半島の西南部の海域で発生した「白村江の戦い」とその後の日本の動向について述べた文として、正しいものはどれですか。（2020年 和歌山公立入試 類似）

1. 唐・新羅の連合軍に敗れた後、唐の侵攻に備えて防人や烽（とび）を配置した
2. 元の軍勢を暴風雨の助けを借りて退け、これを機に武士の力が強まった
3. この戦いに勝利したことで、日本は朝鮮半島南部での影響力を強めた
4. 女真族の侵入をきっかけに、朝廷は遣唐使の派遣を完全に停止した

問2 7世紀の日本は、聖徳太子の政治や大化の改新（645年～）など、国家の仕組みが大きく変化した飛鳥時代にあたります。この時期に天皇を中心とする中央集権国家の建設が急がれた背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2020年 神奈川県公立入試 類似）

1. 唐や新羅といった強大な外国の脅威に対抗するため、国内の統治体制を固める必要があったから
2. 地方の武士が力を持ち始めたため、その反乱を抑えるための軍事力を整備したかったから
3. キリスト教の伝来による文化的な混乱を鎮め、仏教を中心とした国づくりを目指したから
4. ヨーロッパ諸国との貿易を円滑に進めるために、港の整備と度量衡の統一が必要だったから

問3 7世紀の朝鮮半島では、唐と新羅が結んで周辺諸国へ勢力を拡大していました。この際、唐・新羅の連合軍によって滅ぼされた国を復興させるため、倭（日本）が救援軍を派遣した国はどこですか。（2017年 静岡公立入試 類似）

1. 百済
2. 高句麗
3. 新羅
4. 伽耶（加羅）

問4 大宝律令が制定されたことによる政治の変化について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。（2020年 東京都公立入試 類似）

1. 天皇の命令を文書にする役所や図書の管理を行う役所が設置されるなど、大陸の進んだ政治制度が取り入れられた。
2. 武士が領地を支配する上での基準を示すため、裁判の公平さを期する仕組みが初めて全国的に整備された。
3. 氏姓制度を廃止し、地方の豪族が持っていた私有地と私有民をすべて国が直接支配する公地公民制が完了した。
4. 室町幕府が新しい政治の方針を示すために、鎌倉時代の慣習を基にした独自の法典を定めた。

問5 663年に朝鮮半島で起きた白村江の戦いにおいて、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗北した後、国内で取られた国防対策の説明として最も適切なものを選びなさい。（2016年 愛媛公立入試 類似）

1. 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた
2. 博多湾の沿岸に石築地（元寇防塁）を築き、集団戦法を用いる敵の侵入を防いだ
3. 蝦夷（えみし）の抵抗を抑えるために多賀城を築き、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任じた
4. 外国船の来航を制限するため、長崎の出島のみでオランダや中国との貿易を認めた

問6 645年に始まった政治改革の資料において、中大兄皇子や中臣鎌足が蘇我氏を打倒し、新たな政治体制を築こうとする記述が見られます。この一連の改革によって日本で初めて元号が導入された背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 熊本県公立入試 類似）

1. 天皇が国の主権者として時間を支配することを示し、中央集権国家の威信を内外に宣言するため。
2. 蘇我氏が代々使用してきた独自の暦を廃止し、仏教の教えに基づいた新しい時間管理を行うため。
3. 中国の唐に対して完全な服従を誓い、唐と同じ元号を使用することで安全保障を得るため。
4. 有力な豪族たちが交代で元号を決める権利を持つことで、貴族政治の安定を図るため。

問7 七百一年に大宝律令が制定された目的や歴史的意義として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 新潟県公立入試 類似）

1. 唐の法律を範として、土地と人民を国家が直接支配する中央集権的な統治体制を確立するため。
2. 仏教による国家の安定を図るため、全国に国分寺や国分尼寺を建立する制度を整えるため。
3. 役人の政治に対する心得を示すために、儒教や仏教の教えを取り入れた道徳的な規範を作るため。
4. 班田収授法を廃止し、貴族や寺社が私有地を持つことを認めて地方の混乱を収めるため。

問8 飛鳥時代に遣隋使が派遣された背景や目的について説明した文として、最も適切なものを選択してください。（2017年 大分県公立入試 類似）

1. 中国の進んだ制度や文化を取り入れることで、天皇を中心とする中央集権国家の形成を目指した。
2. 朝鮮半島での戦いを有利に進めるため、中国の軍事的な援助を直接受けることを目的とした。
3. 仏教を日本から中国へ広めるために、聖徳太子自らが選んだ高僧を派遣した。
4. 中国との貿易において、日本産の銀や銅を輸出して経済的な利益を独占しようとした。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 唐・新羅の連合軍に敗れた後、唐の侵攻に備えて防人や烽（とびひ）を配置した	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北した日本は、大陸からの報復を強く警戒しました。そのため、九州の防衛のために防人を置き、急を知らせるための烽（のろし）のネットワークを整備しました。また、天智天皇は都を内陸の近江大津宮へ移すなど、国家の防衛と中央集権化を加速させました。選択肢にある元の侵攻（元寇）や女真族の侵入（刀伊の入寇）は、いずれも白村江の戦いよりも後の時代の出来事です。
問2	答え 1 唐や新羅といった強大な外国の脅威に対抗するため、国内の統治体制を固める必要があったから	7世紀の日本は、大陸での唐の建国や、朝鮮半島での緊迫した情勢に直面していました。特に白村江の戦いでの敗北は大きな危機感をもたらし、いつ海外から侵攻されてもおかしくない状況下で、一刻も早く天皇に権力を集中させ、律令制度に基づく強固な国家体制（中央集権体制）を築くことが急務となりました。
問3	答え 1 百済	飛鳥時代、朝鮮半島では新羅が唐と結んで勢力を強め、660年に百済を滅ぼしました。日本（倭）は古くから交流のあった百済の遺民から救援を求められ、中大兄皇子らの指揮のもと、百済復興のために大軍を送りました。しかし、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗し、百済復興の計画は失敗に終わりました。
問4	答え 1 天皇の命令を文書にする役所や図書管理を行う役所が設置されるなど、大陸の進んだ政治制度が取り入れられた。	大宝律令の制定により、唐の官制を模した二官八省という中央官庁の仕組みが整えられました。天皇の秘書的な役割を果たす役所（中務省）や図書を管理する役所（図書寮）などが置かれ、法に基づいた組織的な政治運営が行われるようになりました。
問5	答え 1 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた	白村江の戦いで敗れた日本は、唐や新羅による日本本土への侵攻を恐れ、九州の北部に「水城」や「朝鮮式山城」を築いて防御を固めました。また、北九州の沿岸を守る兵士として、東国出身者を中心とした「防人（さきもり）」を配置しました。石築地は鎌倉時代の元寇、多賀城は平安初期、出島は江戸時代の出来事です。
問6	答え 1 天皇が国の主権者として時間を支配することを示し、中央集権国家の威信を内外に宣言するため。	元号の制定は、単なる年数の数え方の変更ではなく、その土地を支配する君主が時間も支配するという「空間と時間の主権」を象徴する行為でした。大化の改新において中大兄皇子らが日本初の元号「大化」を定めたのは、それまで力を持っていた蘇我氏などの有力豪族を抑え、天皇を中心とした律令国家を形成しようとする強い政治的意志の表れです。
問7	答え 1 唐の法律を範として、土地と人民を国家が直接支配する中央集権的な統治体制を確立するため。	大宝律令の制定により、公地公民の原則に基づいた税制や地方統治の仕組みが法的に整備されました。これにより、日本は法に基づく本格的な律令国家としての形を整え、唐のような強力な中央集権体制を目指しました。
問8	答え 1 中国の進んだ制度や文化を取り入れることで、天皇を中心とする中央集権国家の形成を目指した。	当時の日本は、冠位十二階や十七条の憲法の制定など、国内の政治体制を整える必要があった。そのため、中国の進んだ政治制度や文化を吸収し、国内の豪族を統制して天皇中心の政治を確立することが派遣の大きな目的であった。